



そら豆

そら豆は 空に向かって 豆がなります。また 腎臓の形は そら豆に似ています。皆様の 気持ちも 上を向きますように...

災いは 忘れた頃に やってくる

コロナ感染症も早数年が経過しました。その間に新しい株へ変異を繰り返して、オミクロン株も今となっては過去の株となりました。このように情報の変化が著しい場合、ニュースによる感染者情報の速報・報道が気にしないと目に入らなくなったり、10人単位の感染者ならそれ程多くないと感じてしまったりする事があります。

人の慣れというのは恐ろしいもので、「自分の県の方が他県より感染者数が多いから、他県に旅行に行こうかな。」全国的に蔓延しているからもうどこに行っても一緒だろう。」などと、つい考えてしまう事も多いのではないのでしょうか。

まず、行動する前に感染を予防する為の知識・手技・心構えをもう一度再確認してみてください。対策は十分でしょうか。また、周りの方への気配りも忘れずに、遠方に行った、接触があった場合はその申し出と、2週間以上の検温、体調管理を徹底し、透析治療に臨んでください。透析センターは広いフロアではありませんが、個室ではありません。適宜、窓を開け換気していますが常時ではありません。マスク着用と手洗いの徹底をお願いします。

発行： 済生会今治病院 透析センター
代表： 透析センター長 美馬 敦
患者数： 211名 (5/15現在)

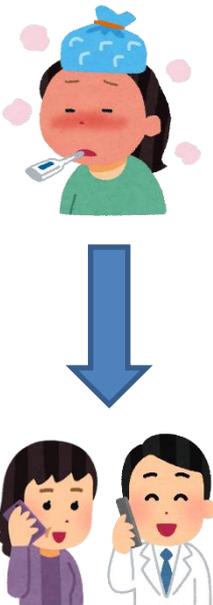
7 チーム活動

《安全推進(リスク・感染チーム)》

集団院内感染防止のため、患者様・医療従事者の安全確保に努めていきます。また、シャント感染を防止する上では、患者様自身のシャント肢の清潔保持が重要となります。穿刺前にシャント肢を泡洗浄することや、皮膚トラブル時には皮膚科受診を勧めます。医療事故を防止し、安全な透析治療を提供できるように環境や体制を整えていきたいと思いますので、患者様・ご家族様のご理解、ご協力をよろしくお願ひします。

発熱などの風邪症状や体調不良がある場合、又はご家族・接触された方に体調不良の方がいる場合は**来院せず、まず電話相談をしてください。**

状況・状態に応じた対応をさせていただきます。



《災害チーム》

いつ起こるか分からない災害に備えて、ご自身の具体的な行動規範を見直してください。透析センターでも患者様へ5月から、ご家族の緊急連絡先のみならず、ご本人の携帯番号などの連絡先を再確認しています。ご家族の方で携帯だと常時連絡対応が困難な場合、お仕事場などへの連絡も可能であるか確認してください。緊急時にスムーズな連絡のやり取りができるようご協力お願いします。

また、**災害カード**は当院以外の施設で急な透析を検討される場合、ダイヤライザの種類・透析時間・使用薬剤など、現在行っている透析治療についての詳細が記載されています。毎月更新し、月初めにお渡していますので、**常時携帯**するようにお願いします。体重カードの裏に赤いテープが貼られている患者様は、治療中透析機械に吊るし**非難行動時の目印**にさせていただきますので、カバンなどに入れたままにせず、目のつく場所に常置してください。災害時は患者様には透析回数や時間の短縮、飲食内容の限定や変更など、いつもとは違う状況での治療を余技なくされる場合があります。最悪の状況も念頭に置きながら、日々の生活を見直していただけたらと思います。



《サルコペニアチーム》

サルコペニアと骨粗鬆症は関連しており、サルコペニアそのものが、骨粗鬆症と骨折の危険因子と言われています。また、透析療養中の4〜5時間の無運動状態がサルコペニア・フレイルを加速させる要因にもなります。そこで

- ① 導入3ヶ月以降の患者様へ運動療法の働きかけ
 - ② 今年度から来年度にかけ骨密度検査を実施。結果により骨粗鬆症、予備軍の患者様へ運動療法介入
 - ③ 転倒時や転倒リスクの高い患者様のカンファレンスを実施。スタッフと情報共有し早めに対応
- ADL(日常生活動作)、QOL(生活の質)を維持し、いつまでも自宅から透析センターに通える手助けが出来たらと考えています。運動療法を是非やってみたいとお考えの方はスタッフまでお知らせください。



ゼロからはじめよう
人生会議

《条件チーム》

今年度はチームメンバーのデータ管理能力の向上を目指したいと思えます。昨年度に作成したマニュアルを用いて、毎月の定期採血結果からより質の良い透析治療が受けられるよう、透析条件の見直しを行っていきます。将来的には、スタッフ個人でデータ管理が出来るように活動できればと考えています。採血結果が基準値外に該当する場合は、皆様に内服状況や生活習慣の聞き取りを行わせていただく場合がありますので、「ご協力をお願いいたします。」

《糖尿病スクリーニングチーム》

透析患者様の約半数は糖尿病の既往があります。糖尿病の合併症は皆さんご存知ですか？腎症、網膜症、末梢神経障害が3大合併症といわれ、透析に至ったということは腎症を発症しています。

血糖の変動は目に負担が大きいのと言われており、**糖尿病性網膜症**を引き起こす可能性があります。今年度は眼科の受診状況を確認し、適宜声掛けをさせていただきます。受診率を高め、予防に努めたいと考えています。自発的な受診をお願いいたします。

末梢神経障害とは手の指先、足先など末梢の感覚が衰えている場合に疑われます。毎月透析センターでも足の動脈の触知や観察をさせていただいています。何かスキントラブルや、お困りことがありましたらスタッフまでお知らせください。

《CKD外来チーム》

外来や総合医療支援室・病棟と連携し、透析導入前から導入後までの継続した看護を提供できるよう活動しています。慢性腎臓病について理解を深め、円滑な治療が継続できるよう支援していきます。

『**人生会議**』(アドバンス・ケア・プランニング)という言葉はご存知でしょうか。医療従事者と、患者様・ご家族様とこれからの治療やケアについて、継続的に話し合いを重ねていくプロセスのことです。昨年、看護研究で「私の医療・ケアに対する希望」のアンケートをさせて頂きました。ご協力ありがとうございました。皆さまの意見を参考に、患者様の価値観・意向を尊重した支援が行えるよう関わってきたいと考えています。

《VA(バスキュラーアクセス)チーム》

バスキュラーアクセスとは、シャントや人工血管表在化動脈、鼠径や内頸動脈を利用し、透析治療を行うための血管、またはそれに代わるもののことを言います。バスキュラーアクセスは透析患者様にとって命に直結する大切な役割を担っておりますが、今年度も引き続きシャントトラブル予防のため、早期発見に努めていこうと思っております。

これから暑い夏がきます。脱水によるシャント狭窄・閉塞・感染に注意してください。



はじめまして



1年間の育休を経て4月から透析への配属となりました。直後は不安と緊張でいっぱいでしたが、温かく接して頂き心より感謝しています。患者様が安全に、そして安心して透析が行えるように1日1日を大切に努力していきたいと思えます。 看護師 村上美穂

4月から臨床工学技士として働かせていただきます、玉井涼葉と申します。透析室での業務を身につけ、早く1人前になれるよう笑顔で頑張っていきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

CE 玉井涼葉